

## 歯科補綴学(Ⅱ)実習における実習書改定後の検討

細木 眞紀, 井上 美穂, 岩浅 匠真, 西川 泰史, 秋月 皆人, 吉原 靖智,  
大倉 一夫, Yuehui Zhang, Huijiao Yan, Arief Waskitho, Rodrigo Shiguero Ofuchi,  
大島 正充, 鈴木 善貴, 成谷 美緒, 宮城 麻友, Resmi Raju, Junhel C. Danalon,  
松香 芳三

徳島大学大学院医歯薬学研究部

### 1. 要旨

我々は歯科補綴学冠橋義歯学(以下歯科補綴学(Ⅱ))の実習を担当している。2006年度から2016年度まで使用していた実習書を大幅に改訂し、2017年度より徳島大学歯学部4年生の歯科補綴学実習に導入した。今年度はManabaに実習書をアップして実習を行った。その効果と今後の課題を調査するために、学生にアンケートを行い、その結果を検討した。

### 2. 緒言

我々は臨床歯学教育の歯科補綴学(冠橋義歯学)を担当しており、歯を形成し、被せ物を作り、ブリッジを作る等、歯科診療に直結した診療技能の教育に当たっている。2017年度に10年間使用していた補綴学冠橋義歯学実習書を大幅に改訂し、徳島大学歯学部4年生の実習に導入した。

る。カップに計量した印象材をラバーボウルに粉末、冷水の順で入れ、スパチュラを用いて30秒間手練和を行う。練和の開始時は粉末が飛散しないよう粉を水に馴染ませ、次いでラバーボウルを回転させながら壁面にスパチュラを押しつけ気泡を抜きつつ均一に練和する。練和後、スパチュラを用い気泡が入らないように、できるだけ一塊にトレーに盛りつける。上顎の口蓋部分の印象材は盛りすぎないように注意する。



アルジネート印象材の練和

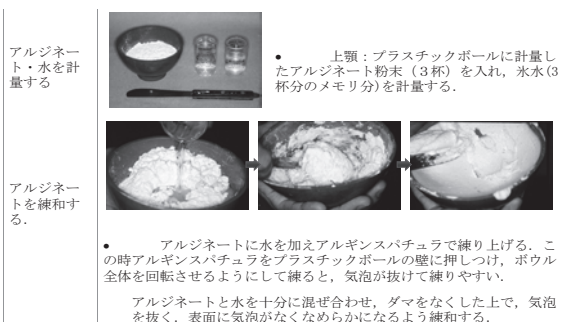


図1：旧実習書(上)と新実習書(下)の比較例

図1に示すように、新実習書は技能伝承マニュアルを参考にし、手順に従った写真を加えるとともに作業の説明、判断のポイント等を書き加えてある。昨年の本学会で報告したように、本実習書を最初に導入した学生(2017年度4年生)を対象に行ったアンケート結果からは、実習書に一定の評価はあるものの、教員のデモや指導の方がより学生には効果的であることが示唆された。

そこで、2019年度の4年生においても2017年度の学生と同様の傾向を示すのかを調査するとともに臨床歯学教育である実習における効果的な教育法について検討した。

### 3. 方法

2019年度徳島大学歯学部4年生(43名)を対象に実習前期終了後に実習に関するアンケート調査を行い、2017年度の結果と比較した。

なお、本研究は徳島大学病院臨床研究倫理委員会による承認を受けて実施した(No. 2892)。

### 4. 結果

2019年度の学生43名中37名(86%)の回答を得た。アンケート結果の一部を図2~6に示す。

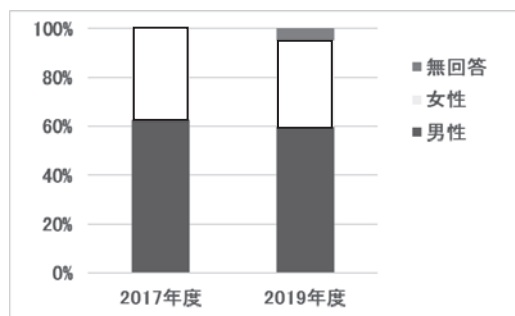
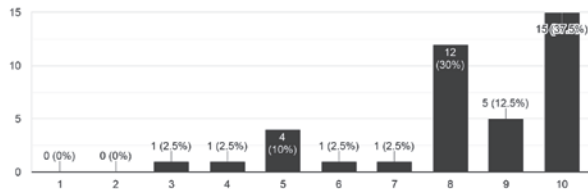


図2：2017年度と2019年度の学生の男女比

実習書に対する満足度の評価を比較すると、2017年度の学生は80%以上が8以上の満足度で評価していたが、2019年度の学生の評価にはばらつきがあり、8以上の満足度の学生は約50%にとどまった(図3)。

### 2017年度



### 2019年度

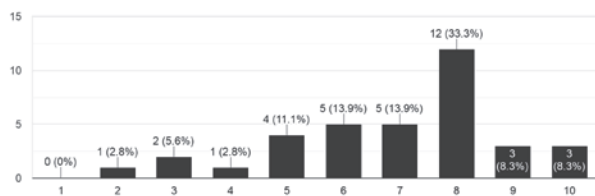
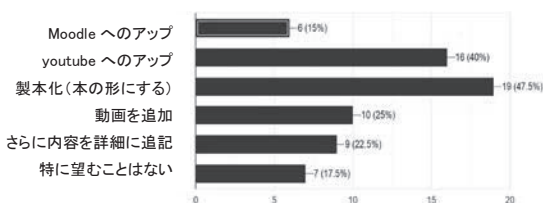


図3：実習書はわかりやすかったですか？

実習書についてどのようなことを改善して欲しいのかを尋ねたところ、製本化を望む割合が最も高く、以下オンライン化、動画の追加が続く傾向は2017年度と2019年度も同様であった。製本化を望む割合は2017年度は50%弱であったが、2019年度は約70%と増加していた。

### 2017年度



### 2019年度

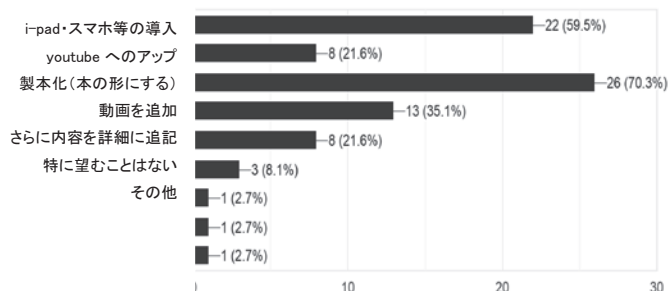


図4：実習書で改善して欲しいことは何ですか？

今回使用した Manaba について評価してもらったところ、その評価は高いとは言えなかった。その理由は、オンライン情報を資料として学生が印刷する時の問題が大きかった(図5, 6)。

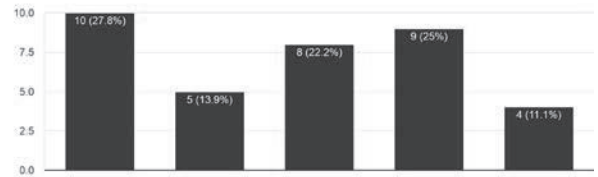


図5：Manaba は使いやすかったですか？



図6：Manaba で不都合だったことは何ですか？

## 5. 考察

新規実習書への評価が2019年度の学生の方が低かったのは、2017年度の学生には旧実習書も配付したためその対比によって、2017年度の学生の評価が高く、2019年度の学生の方が低くなったと考えられた。実習書に望む事柄についても、新規実習書をベースとした2019年度の学生の方が、要求が高く、製本化を強く望んでいた。通常の講義とは異なり、歯科補綴学実習では、その技能を教えるため、知識のみでなく、文章や図表によって表わすことが難しい暗黙知を伝える必要がある。アンケート結果を元に指導方法にも改善を加え、学生の教育訓練を行っていきたいと考えている。

## 6. 文献

- 3時間でつくる技能伝承マニュアル。森和夫, 森雅夫. JIPMソリューション. 東京. 2007.